

平成20年度企画展

修験の山・金峯山の秘宝

—その歴史と文化財—



展示テーマ

◇金峯素描 ～一山内の風景～

青龍寺／六所神社／金峯神社社務所
(旧南頭院)／金峯山博物館(旧金剛院)
／空賢院跡／国指定重要文化財金峯神社
本殿ほか

◇金峯山の歴史

金峯萬年草／鶴岡市指定有形文化財最上義光
寄進状／酒田市指定有形文化財弘采録ほか

◇金峯山の遺跡

藤沢岩屋洞窟遺跡出土品／青龍寺表採資料

◇金峯山の文化財

金峯神社…県指定有形文化財如意輪観音坐像
鶴岡市指定有形文化財鰐口／笈／
唐櫃／絵馬ほか
六所神社…県指定有形民俗文化財獅子頭
三如来三菩薩像ほか
青龍寺…大日如来坐像ほか

記念講演会 3月7日(土)

午後1時30分～3時30分

「修験の山・金峯山の歴史」

講師 金峯山博物館学芸員 松浦光也氏

会場 山形県立博物館 講堂

山形県立博物館

〒990-0826 山形県山形市霞城町1-8(霞城公園内)
TEL 023-645-1111 FAX 023-645-1112
URI <http://www.ocn.ne.jp/~ycmuseum/>

—開催にあたって—

金峯山は、山形県鶴岡市大字青龍寺にあり朝日山地北端からのびる摩耶山地の先端に位置する山です。社伝によれば、天智天皇10(671)年に役小角によって開山され、如意輪堂は天安2(858)年に慈覚大師(円仁)の草創であると言われています。

また、承暦年中(1078～81)に奈良の吉野金峯山(きんぷせん)を勧請し、蔵王権現を祀るようになりました。この頃から山名も金峯山と改められたようです。

金峯山は当山派修験道の霊場として栄え、峯中修行も行われていました。しかし明治元(1868)年の神仏分離令によって行われなくなりました。

本展は、金峯山一山にある金峯神社、六所神社、青龍寺などの歴史と文化財を通して、修験の山として栄えた往時をつまびらかにしようとするものです。金峯山関連の資料が、このような形で公開されるのは初めてことです。本展を通して、多くの皆様に金峯山一山の寺社について興味関心をいただければ幸いです。

本展開催にあたり、所蔵品をお借りした金峯神社、六所神社、青龍寺、酒田市立光丘文庫、鶴岡市教育委員会、致道博物館、致道館などの諸寺社・諸機関や御指導賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成21年1月

山形県立博物館 阿部 寛

開催期間 平成21年1月10日～
4月22日

山形県立博物館

ミュージアム 新発見やまがた
魅せます! ふるさとの宝もの

◇金峯素描～一山内の風景～



金峯山 役行者を開祖に持ち、修験の山として明治期まで峯中修行がなされました。

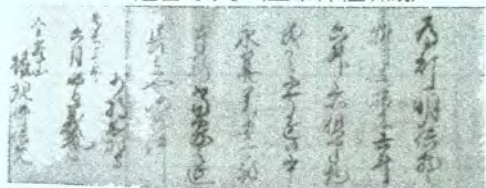


金峯神社本殿 中世藤原氏の棟札が残ります。入母屋造、銅板葺の建物です。(写真 鶴岡市教委)

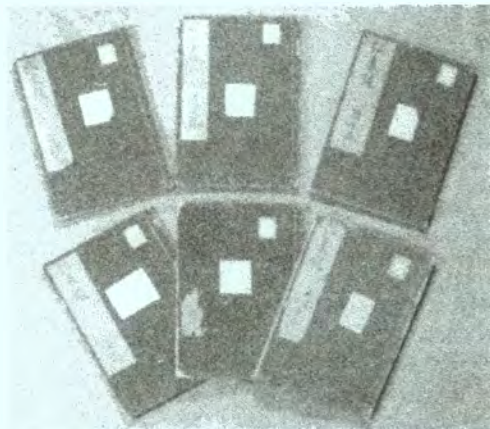
◇金峯山の歴史



金峯萬年草 江戸時代享保年間に南頭院住職廣慶が撰述した書で、一山の縁起書です。(金峯神社所蔵)



最上義光寄進状 慶長 17 (1612) 年に社寺領を寄進しています。(金峯神社所蔵)



弘采録 元庄内藩士で文人の池田玄斎の書で、金峯山に集った人々や住職のことなども書いています。(酒田市立光丘文庫所蔵)

◇金峯山の遺跡



藤沢岩屋洞窟遺跡 同遺跡では昭和 50 年～ 56 年までの間に計 5 回の発掘調査が行われました。縄文時代から中世までの出土遺物が確認され、岩陰地点からは配石遺構や炉跡が検出されました。(写真 致道博物館)

藤沢岩屋洞窟遺跡出土遺物 同遺跡からは、中世の遺物が僅かに見つかっています。石製の碑伝や金銅仏など修験の山として栄えた痕跡をうかがい知ることができます。(致道博物館所蔵)



青龍寺表採資料 金峯山東麓にある青龍寺の裏山には人為的なテラスが広がっており、多数の板碑や五輪塔が散在しています。その付近から中世の陶磁器が表採されています。(鶴岡市教委所蔵)

◇金峯山の文化財

◎金峯神社の文化財



如意輪観音坐像 一面六臂の像で、穏やかな表情をしています。意匠から平安時代の作とされています。(金峯神社所蔵)

◎青龍寺の文化財



大日如来坐像 本来、湯殿山仙人澤の行屋の本尊として祀られていました。明治時代になり谷の大日寺に一時安置され、青龍寺に至っています。(青龍寺所蔵)



神馬図 寛永 7 (1630) 年に奉納されたもの。「静」・「動」一対としています。(金峯神社所蔵)

◎六所神社の文化財



勢至菩薩立像 三如来三菩薩六軀の内の一つ。(六所神社所蔵)



正平 6 年獅子頭 現在六所神社には南北朝から昭和までの 6 頭がおさめられています。(六所神社所蔵)